

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2019年4月1日  
(第57期) 至 2020年3月31日

藤田エンジニアリング株式会社

群馬県高崎市飯塚町1174番地5

(E00277)

# 目次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	6
第2 事業の状況	7
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	7
2. 事業等のリスク	8
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	9
4. 経営上の重要な契約等	12
5. 研究開発活動	12
第3 設備の状況	13
1. 設備投資等の概要	13
2. 主要な設備の状況	14
3. 設備の新設、除却等の計画	15
第4 提出会社の状況	15
1. 株式等の状況	15
(1) 株式の総数等	15
(2) 新株予約権等の状況	15
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	15
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	15
(5) 所有者別状況	16
(6) 大株主の状況	16
(7) 議決権の状況	17
2. 自己株式の取得等の状況	17
3. 配当政策	18
4. コーポレート・ガバナンスの状況等	19
(1) コーポレート・ガバナンスの概要	19
(2) 役員の状況	21
(3) 監査の状況	24
(4) 役員の報酬等	26
(5) 株式の保有状況	27
5. 経理の状況	29
1. 連結財務諸表等	30
(1) 連結財務諸表	30
(2) その他	60
2. 財務諸表等	61
(1) 財務諸表	61
(2) 主な資産及び負債の内容	74
(3) その他	74
第6 提出会社の株式事務の概要	75
第7 提出会社の参考情報	76
1. 提出会社の親会社等の情報	76
2. その他の参考情報	76
第二部 提出会社の保証会社等の情報	77

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年6月26日
【事業年度】	第57期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	藤田エンジニアリング株式会社
【英訳名】	FUJITA ENGINEERING CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤田 実
【本店の所在の場所】	群馬県高崎市飯塚町1174番地5
【電話番号】	027（361）1111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営管理本部長 須藤 久実
【最寄りの連絡場所】	群馬県高崎市飯塚町1174番地5
【電話番号】	027（361）1111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営管理本部長 須藤 久実
【縦覧に供する場所】	藤田エンジニアリング株式会社埼玉支店 （埼玉県熊谷市問屋町二丁目2番17号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	26,976,560	26,287,851	29,739,857	29,070,881	29,087,314
経常利益 (千円)	1,307,511	1,521,866	2,205,382	2,106,699	1,830,691
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	761,561	1,009,822	1,331,078	1,477,204	1,131,023
包括利益 (千円)	634,529	1,089,748	1,378,265	1,413,820	1,167,444
純資産額 (千円)	9,036,976	9,935,719	11,132,045	12,279,463	13,180,812
総資産額 (千円)	19,365,860	21,234,240	22,502,984	23,719,598	25,040,517
1株当たり純資産額 (円)	993.57	1,092.38	1,223.91	1,349.03	1,446.65
1株当たり当期純利益 (円)	70.99	111.02	146.35	162.33	124.17
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	46.7	46.8	49.5	51.8	52.6
自己資本利益率 (%)	8.15	10.65	12.64	12.62	8.88
株価収益率 (倍)	6.37	5.07	5.65	4.87	5.16
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	599,479	1,997,066	△693,240	3,029,370	1,659,456
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△26,342	△298,039	△335,453	△545,672	△303,665
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△1,241,318	△240,552	△185,732	△312,598	△235,742
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	4,116,325	5,573,862	4,357,409	6,524,834	7,642,610
従業員数 (人)	564	560	564	578	565
[外、平均臨時雇用者数]	[20]	[24]	[24]	[26]	[25]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第56期の期首から適用しており、第55期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	15,711,400	14,253,848	16,866,266	16,320,453	16,325,908
経常利益 (千円)	1,022,650	1,056,854	1,424,785	1,452,884	1,183,565
当期純利益 (千円)	598,170	787,831	913,963	1,118,920	805,502
資本金 (千円)	1,029,213	1,029,213	1,029,213	1,029,213	1,029,213
発行済株式総数 (千株)	11,700	11,700	11,700	11,700	11,700
純資産額 (千円)	6,775,457	7,440,640	8,208,094	9,005,259	9,583,329
総資産額 (千円)	13,974,252	15,048,166	16,138,387	17,000,566	18,223,471
1株当たり純資産額 (円)	744.93	818.06	902.44	989.32	1,051.81
1株当たり配当額 (円)	16.00	23.00	25.00	30.00	30.00
(内1株当たり中間配当額)	(8.00)	(13.00)	(10.00)	(15.00)	(15.00)
1株当たり当期純利益 (円)	55.76	86.62	100.49	122.96	88.43
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	48.5	49.4	50.9	53.0	52.6
自己資本利益率 (%)	8.38	11.08	11.68	13.00	8.67
株価収益率 (倍)	8.11	6.50	8.23	6.43	7.25
配当性向 (%)	28.7	26.6	24.9	24.4	33.9
従業員数 (人)	238	240	237	249	252
[外、平均臨時雇用者数]	[—]	[—]	[—]	[—]	[—]
株主総利回り (%)	99.8	128.4	190.0	188.7	163.1
(比較指標：配当込み TOPIX) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	571	598	1,128	1,011	910
最低株価 (円)	431	432	505	662	508

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第54期の1株当たり配当額には、記念配当5円を含んでおります。

4. 第55期の1株当たり配当額には、特別配当5円を含んでおります。

5. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

6. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第56期の期首から適用しており、第55期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標となっております。

## 2 【沿革】

年月	概要
1964年10月	上下水道工事、電気計装設備工事及び建築付帯設備工事を目的として藤田工事株式会社（現藤田エンジニアリング株式会社）を資本金3,000千円で群馬県高崎市台町26番地に設立。
1975年3月	本社を群馬県高崎市飯塚町1174番地5に移転。
1986年3月	藤田電機株式会社を吸収合併し、商号を藤田エンジニアリング株式会社とする。合併に伴い藤田電機株式会社が営業していた産業用機器販売事業及び生産自動化（ファクトリーオートメーション）システム事業を継承するとともに、産業用機器の総合メンテナンス専門の藤田サービス株式会社（現藤田テクノ株式会社）を100%子会社とする。
1990年12月	藤田情報システム株式会社（通信機器及びOA機器の販売等が目的）及び藤田電子システム株式会社（電子部品の検査・組立及び半導体素子の内部回路設計等が目的）の株式を藤田興産株式会社（現日東興産株式会社）より譲受け、100%子会社とする。
1991年4月	藤田電子システム株式会社を吸収合併し、同社が営業していた電子部品の検査・組立、半導体素子の内部回路設計及び電子回路の設計・製作事業を継承。
1993年2月	100%子会社藤田産業機器株式会社を設立。
1993年4月	藤田産業機器株式会社へ産業用機器販売及び生産自動化システムの販売に関する営業を譲渡。
1996年8月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1998年7月	100%子会社佐久エレクトロン株式会社を設立。
2000年4月	佐久エレクトロン株式会社を吸収合併し、同社が営業していた半導体素子の検査・組立事業を継承。
2002年10月	会社分割により100%子会社藤田デバイス株式会社を設立し、電子部品製造事業を同社が継承。
2003年5月	100%子会社藤田水道受託株式会社を設立。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2006年4月	100%子会社の藤田情報システム株式会社は、藤田産業機器株式会社を吸収合併し、社名を藤田ソリューションパートナーズ株式会社とする。
2008年5月	システムハウスエンジニアリング株式会社の株式を譲受け、100%子会社とする。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q に上場。
2012年6月	100%子会社FUJITA ENGINEERING ASIA PTE. LTD. を設立。
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q （スタンダード）に上場。
2018年8月	100%子会社の藤田テクノ株式会社がFUJITA TECHNO MALAYSIA SDN. BHD. を設立。
2020年3月	システムハウスエンジニアリング株式会社の全株式を譲渡。

### 3 【事業の内容】

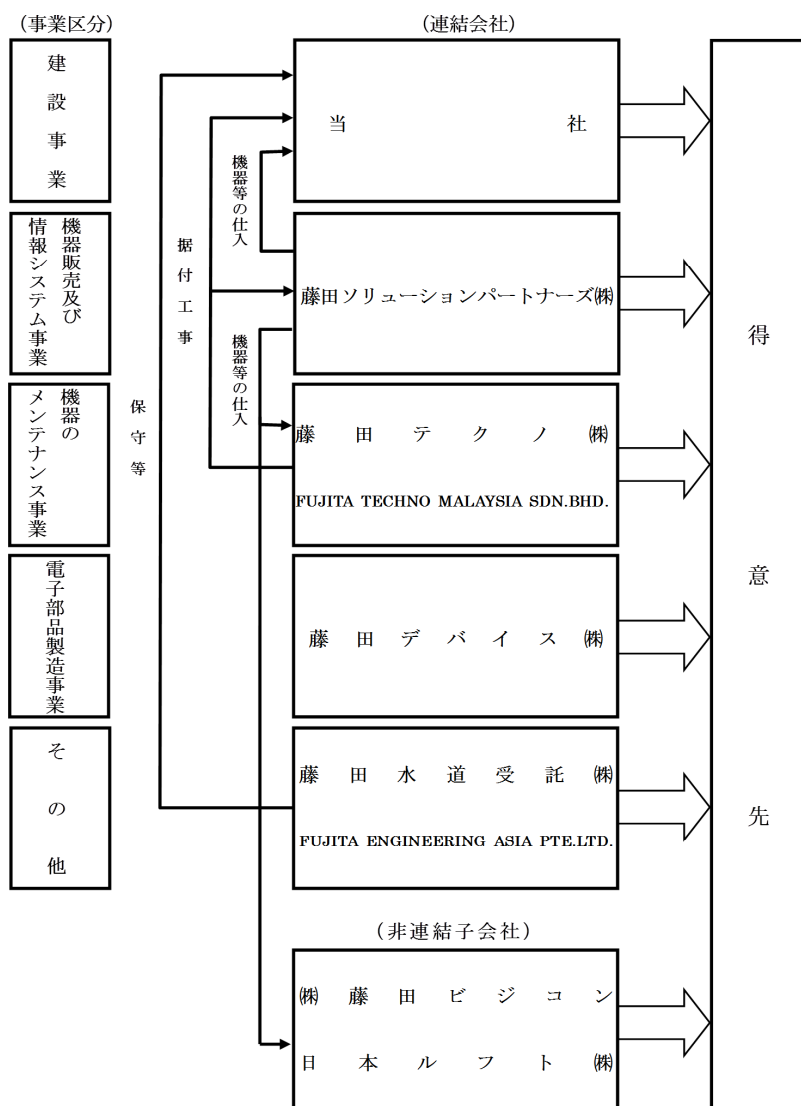
当社グループは、当社及び関係会社（連結子会社6社及び非連結子会社2社）で構成されており、建築付帯設備工事を施工する建設事業、産業用機器の販売並びに情報通信機器の施工・販売及びソフトウェアの開発・販売をする機器販売及び情報システム事業、空調設備等の修理・保守・据付をする機器のメンテナンス事業、電子部品の製造事業の他、水道施設管理受託業務等を主な内容として事業活動を展開しております。

事業内容と当社及び連結子会社6社の当該事業内容に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の5部門は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げる報告セグメントの区分と同一であります。

- 建設事業 : ビル設備工事、産業設備工事及び環境設備工事については、当社が施工しております。
- 機器販売及び情報システム事業 : 藤田ソリューションパートナーズ(株)が産業用機器の販売並びに情報通信機器の施工・販売及びソフトウェアの開発・販売を行っております。
- 機器のメンテナンス事業 : 藤田テクノ(株)が空調設備等の修理・保守並びに据付を行い、FUJITA TECHNO MALAYSIA SDN. BHD. が空調設備等の管理指導及び営繕工事を行っております。
- 電子部品製造事業 : 藤田デバイス(株)が電子部品の検査及びせん別・組立事業を行っております。
- その他 : 藤田水道受託(株)が水道施設管理受託業務を行い、FUJITA ENGINEERING ASIA PTE. LTD. が技術者派遣を行っております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注) システムハウスエンジニアリング(株)は、2020年3月30日付で全株式を譲渡したため、連結の範囲から除いております。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 藤田ソリューションパートナーズ(株) (注) 2、3	群馬県高崎市	90,000千円	機器販売及び情報システム事業	100	当社に対する産業用機器の販売並びに情報通信機器の施工・販売及びソフトウェアの販売 当社による事業所等の賃貸 当社による債務保証 役員の兼任4名
藤田テクノ(株) (注) 4	群馬県高崎市	50,000千円	機器のメンテナンス事業	100	当社に対する産業用機器の据付・修理・保守 事務所の賃貸借 当社による債務保証 役員の兼任4名
藤田デバイス(株)	群馬県高崎市	50,000千円	電子部品製造事業	100	当社による事務所等の賃貸 役員の兼任4名
藤田水道受託(株)	群馬県高崎市	20,000千円	その他	100	当社に対する水道施設管理業務の提供 当社による事務所等の賃貸 役員の兼任3名
FUJITA ENGINEERING ASIA PTE. LTD.	シンガポール	1,243千米ドル	その他	100	当社による資金貸付 役員の兼任2名
FUJITA TECHNO MALAYSIA SDN. BHD.	マレーシア	1,000千リンギット	機器のメンテナンス事業	100 (100)	

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 藤田ソリューションパートナーズ(株)については売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が100分の10を超えておりますが、同社の属する機器販売及び情報システム事業セグメントの売上高に占める割合が100分の90を超えておりますので主要な損益情報等の記載を省略しております。

4. 藤田テクノ(株)については売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	5,545,645千円
	(2) 経常利益	617,115千円
	(3) 当期純利益	383,619千円
	(4) 純資産額	2,363,970千円
	(5) 総資産額	3,893,452千円

5. 議決権の所有割合の（ ）内は、間接所有割合で内書しております。

6. 2020年3月30日付で、システムハウスエンジニアリング(株)の全株式を譲渡したため、連結の範囲から除いております。



## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
建設事業	218
機器販売及び情報システム事業	92
機器のメンテナンス事業	124
電子部品製造事業	76 [25]
その他	21
全社（共通）	34
合計	565 [25]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、準社員は [ ] 内に年間の平均人員を外書しております。  
 2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。  
 3. 機器のメンテナンス事業の従業員数が減少している主な理由は、システムハウスエンジニアリング株式会社の全株式を譲渡したことによるものであります。

### (2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
252	40.0	13.2	5,054,391

セグメントの名称	従業員数（人）
建設事業	218
全社（共通）	34
合計	252

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。  
 4. 平均年齢、平均勤続年数、平均年間給与には、受入出向者を含んでおりません。

### (3) 労働組合の状況

労使関係については特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

本項に記載した将来に関する記述は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営の基本方針及び経営戦略

当社グループは創業以来、「信用・社会貢献・豊かな生活環境づくり」を経営理念に掲げ、地域社会とともに歩んでまいりました。

国内市場は成熟期を迎え、さらに取引自由化の拡大や情報通信技術の飛躍的な発展により経済活動がボーダレス化する中、新たなステージでの価値創造が求められています。また、世界的な環境問題への関心の高まりとともに企業に対する社会的要請は変化し、サステナブルな事業構造の実現に向けた組織改革も必至となってきました。

当社グループは、このように多様化する社会的ニーズに対して、「建設」「機器販売及び情報システム」「機器のメンテナンス」「電子部品製造」等の各事業により、設備の企画から施工、保守メンテナンス、受託管理までワンストップでサービスを顧客に提供できる態勢を整えております。また、提供する設備機器や装置、そして、これらとシステムとの融合により、顧客の製造工程や保守メンテナンス業務の合理化、効率化を可能としており、グループ内の情報と技術を結集することによる継続的なビジネスの創造を推進してまいります。

また、企業に対して高まる、環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）の要請についても取り組みを強化し、持続可能な社会の実現に向けた社会的責任を果たしてまいります。

#### (2) 対処すべき課題

当社グループの主力事業が属する国内建設業界は、民間設備投資及び公共投資に大きく影響される構造です。足元の事業環境では、技能労働者不足やこれに伴う労務費の上昇、並びに建設資材の価格上昇などにより厳しい状況が続いております。このような中、当社グループは人材基盤の強化や外部ソースとの連携により各事業における独自技術を強化・発展させ、また、資金を効率的に調達、運用することにより、社会や顧客のニーズにトータル・ソリューションで応えていく強い事業基盤をつくることを継続的な課題としております。目指すべき基本数値は営業利益15億円とし、ROE 8%を評価の目安としております。

また、新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、我が国経済のみならず世界経済に深刻な影響を及ぼしており、今後の国内経済については、先行き不透明であります。感染拡大または感染防止による消費の低迷は、企業の在庫に影響を及ぼし、電子部品製造事業の主力顧客が生産調整を行った場合、また、建設事業、産業用機器の販売事業は収益の悪化により企業の設備投資が抑制へと向かった場合、受注に影響を受けることとなりますが、投資の抑制は、メンテナンス事業に対する需要の増加、また、省力化や合理化に向けた装置開発や情報システム事業に対する需要の拡大も期待させます。当社グループは従業員をはじめ関係者すべての安全を最優先としつつ業務の効率化に努め、感染症による影響を最小限とするよう取り組んでまいります。

なお、中期経営計画につきましては、(1) 人材基盤の強化 (2) 事業基盤の強化を基本方針として取り組んでまいります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。当社グループは、これらの発生可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の適切な対応に努めております。

なお、本項に記載した将来に関する記述は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 建設事業の市場環境について

当社グループの事業に大きな影響を与える建設業界は、公共投資及び民間設備投資に大きく影響されます。景気の後退等により、これらの投資が縮小した場合には、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、公共・民間工事の施工バランスを注視しつつ、継続的に新規顧客の開拓を行っております。

### (2) 資材の市況リスクについて

当社グループは管材等の資材を調達しておりますが、品薄や相場の高騰等資材価格の急速かつ大幅な上昇があった場合、業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、調達先を適度に分散させております。

### (3) 取引先の信用リスクについて

建設業においては、一取引における請負代金が大きく、多くの場合には工事目的物の引渡時に工事代金が支払われる条件で契約が締結されます。このため、工事代金受領前に取引先が信用不安に陥った場合、引当金の計上等により当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、債権保全のための情報収集と分析を継続的に行っております。

### (4) 大規模な自然災害によるリスクについて

地震、台風等の大規模な自然災害が発生し、当社グループ又は取引先に人的・物的被害が生じた場合、製品・資材調達の遅延、一時的な操業の停止や工期の大幅な延長、工事現場の復旧に係る支出等により、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、事業継続計画（BCP）を構築し、災害発生に備えております。

### (5) 資産保有リスクについて

営業活動上の必要性から、有価証券・事業用不動産等の資産を保有しているため、有価証券については時価が著しく低下した場合に、また、事業用不動産については時価及び収益性が著しく低下した場合に、減損処理等により当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、取締役会等において投資の適正性を判定しております。

### (6) 工事施工に関するリスクについて

工事施工において人的・物的事故や災害が発生した場合、業績等に影響を及ぼす場合があります。また、工事施工段階での想定外の追加原価発生等により不採算工事が発生した場合、過失により大規模な補修工事が発生した場合等に、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、施工の安全、工程、品質そして環境を管理する部門を設置しております。

### (7) 電子部品製造事業について

電子部品製造事業は、循環的な市況変化が大きい半導体市場の影響を強く受けます。半導体市場はこれまでも深刻な低迷期を繰り返してきましたが、市場の低迷は製品需要の縮小、過剰在庫、販売価格の急落、過剰生産をもたらします。このような不安定な市場性質から、将来においても繰り返し低迷する可能性があり、その結果、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、同事業に係る経営資源を柔軟に再配分できるような体制を構築しております。

### (8) 海外事業に伴うリスクについて

当社グループが進出した国または地域において、法規制の改正、政治・経済・社会の変動などの事象が生じた場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。また、連結財務諸表作成にあたっては在外連結子会社の財務諸表を日本円に換算するため、為替レートの変動が業績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、海外への進出にあたっては紛争等の発生リスクを調査しております。

(9) 新型コロナウイルス等の感染症に関するリスクについて

当社グループの従業員や取引先に新型コロナウイルス等の感染者が発生した場合、または営業活動や事業活動に関して一時的な制限又は停止の要請等があった場合、工事の中断や延期、製品・資材調達の遅延が生じる等、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、在宅勤務等の予防措置を講じた上、従業員に感染症への対処方針を示し、また事業継続計画（BCP）を定める等により影響を最小限とするよう取り組んでおります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における日本経済は、企業収益や雇用情勢の改善等により緩やかな回復基調で推移していましたが、米中貿易摩擦が世界経済に与える影響などに加え、新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴う経済活動の停滞により、世界的な規模で景気の先行き不透明感が強まる状況となりました。

当社グループの主力事業が属する国内建設市場におきましては、民間設備投資を中心に堅調に推移する一方、技能労働者不足やこれに伴う労務費の上昇、並びに建設資材の価格上昇、加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止のための要請などにより厳しい状況が続きました。このような中、当社グループは中期経営計画「Integrity（誠実）& Initiative（主導権）」に基づき、新たな成長に向けての基盤づくりを進めてまいりました。

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要は次のとおりであります。なお、新型コロナウイルス感染症の財政状態及び経営成績への影響は軽微であります。

#### ①財政状態及び経営成績の状況

##### a. 財政状態

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,320百万円増加し、25,040百万円となりました。

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ419百万円増加し、11,859百万円となりました。

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ901百万円増加し、13,180百万円となりました。

##### b. 経営成績

当連結会計年度における当社グループの連結売上高は、前連結会計年度より16百万円増加し29,087百万円（前連結会計年度比0.1%の増加）、営業利益は、前連結会計年度より175百万円減少し1,758百万円（前連結会計年度比9.1%の減少）、経常利益は、前連結会計年度より276百万円減少し1,830百万円（前連結会計年度比13.1%の減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度より346百万円減少し1,131百万円（前連結会計年度比23.4%の減少）となりました。

なお、連結子会社であったシステムハウスエンジニアリング㈱の全株式を、2020年3月30日付で譲渡しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

##### [建設事業]

当社グループの主力事業である当事業におきましては、受注高は16,893百万円（前連結会計年度比12.1%の増加）となりました。部門別では、産業設備工事が7,391百万円（前連結会計年度比1.5%の増加）、ビル設備工事が4,835百万円（前連結会計年度比34.4%の増加）、環境設備工事が4,666百万円（前連結会計年度比11.4%の増加）となりました。

売上高は、工事の引渡し時期や進捗等の影響により、16,325百万円（前連結会計年度比0.03%の増加）となりました。部門別では、産業設備工事が6,785百万円（前連結会計年度比3.4%の増加）、ビル設備工事が4,272百万円（前連結会計年度比31.3%の減少）、環境設備工事が5,267百万円（前連結会計年度比48.8%の増加）となりました。

##### [機器販売及び情報システム事業]

当事業におきましては、製造業向けの機器販売、情報システム関連がともに前連結会計年度と同水準で推移し、売上高は6,286百万円（前連結会計年度比0.3%の減少）となりました。

##### [機器のメンテナンス事業]

当事業におきましては、設備機器メンテナンス、太陽光発電等住宅設備機器の設置がともに堅調であったことにより、売上高は6,547百万円（前連結会計年度比6.3%の増加）となりました。

[電子部品製造事業]

当事業におきましては、製造工程省力化装置の受注が減少したものの、半導体関連部品の受注が好調であったことにより、売上高は1,633百万円（前連結会計年度比2.6%の増加）となりました。

[その他]

その他の事業におきましては、売上高は333百万円（前連結会計年度比2.4%の減少）となりました。

- (注) 1. 上記売上高はセグメント間取引消去前の金額によっております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,117百万円増加し7,642百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

当連結会計年度において営業活動の結果獲得した資金は、前連結会計年度に比べ1,369百万円減少し1,659百万円（前連結会計年比45.2%の減少）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の1,757百万円（前連結会計年度比16.6%の減少）、法人税等の支払額674百万円（前連結会計年度比28.8%の減少）、仕入債務の増加額360百万円（前連結会計年度比48.5%の増加）を調整したこと等によるものであります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ242百万円減少し303百万円（前連結会計年度比44.4%の減少）となりました。これは主に子会社株式の売却による収入が238百万円あったこと、投資有価証券の取得による支出が417百万円、有形固定資産の取得による支出が110百万円あったこと等によるものであります。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ76百万円減少し235百万円（前連結会計年度比24.6%の減少）となりました。これは主に配当金を273百万円支払ったこと等によるものであります。

③生産、受注及び販売の実績

生産、受注、販売の実績については、当社グループが営んでいる事業の大半を占める建設事業では生産実績を定義することが困難であり、また、請負形態をとっているため販売実績という定義は実態にそぐいません。

よって、生産、受注及び販売の実績については、「①財政状態及び経営成績の状況」におけるセグメントの業績に関連付けて記載しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりです。本項に記載した将来に関する記述は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

①重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に従って作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、会計上見積りが必要な事項については、合理的な基準に基づき見積りをしておりますが、新型コロナウイルス感染症の今後の業績への影響は非常に不透明でもあり、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社および連結子会社の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項」に記載しております。

②当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

[当社グループの経営成績等について]

「3 (1) ①財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。また、セグメントの財政状態等につきましては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」をご参照ください。

[当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因について]

「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」「2 事業等のリスク」に記載しているとおりであります。

[資本の財源及び資金の流動性について]

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、当社グループでは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としており、運転資金及び設備資金については、内部資金または金融機関からの借入等によっております。

キャッシュ・フローの分析については、「3 (1) ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
自己資本比率 (%)	49.5	51.8	52.6
時価ベースの自己資本比率 (%)	33.4	30.4	23.3

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

・財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、19,298百万円（前連結会計年度末は18,166百万円）となり、1,131百万円増加致しました。これは主に現金預金が増加し7,747百万円（前連結会計年度末は5,829百万円）、有価証券が799百万円減少し200百万円（前連結会計年度末は999百万円）となったことによります。完成工事未収入金及び受取手形については、営業循環過程での結果であり、特記すべき事項はありません。なお、現金預金の増減については「3 (1) ②キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

当連結会計年度末における固定資産の残高は、5,742百万円（前連結会計年度末は5,552百万円）となり、189百万円増加致しました。これは主に有形固定資産が229百万円減少し3,178百万円（前連結会計年度末は3,408百万円）、投資有価証券が452百万円増加し1,918百万円（前連結会計年度末は1,465百万円）となったことによります。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、10,493百万円（前連結会計年度末は10,187百万円）となり、306百万円増加致しました。これは主に支払手形が362百万円減少し2,591百万円（前連結会計年度末は2,954百万円）、工事未払金が672百万円増加し3,268百万円（前連結会計年度末は2,596百万円）となったことによります。支払手形及び工事未払金の増減については、営業循環過程での結果であり、特記すべき契約上の変更事項等はありません。

当連結会計年度末における固定負債の残高は、1,366百万円（前連結会計年度末は1,252百万円）となり、113百万円増加致しました。これは主に退職給付に係る負債が69百万円増加し1,186百万円（前連結会計年度末は1,116百万円）、リース債務が33百万円増加し68百万円（前連結会計年度末は35百万円）となったことによります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、13,180百万円（前連結会計年度末は12,279百万円）となり、901百万円増加致しました。これは主に配当金の支払を273百万円行ったこと、親会社株主に帰属する当期純利益を1,131百万円計上したこと等によるものであります。

4 【経営上の重要な契約等】

当社グループにおいては、当連結会計年度における経営上の重要な契約等にかかる特記事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループにおいては、当連結会計年度における研究開発活動は特段行っておりませんので特記事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

(建設事業)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。

(機器販売及び情報システム事業)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。

(機器のメンテナンス事業)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。

(電子部品製造事業)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。

(その他)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。

(全社共通)

当連結会計年度においては、特段の設備投資は行っていません。



## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

### (1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物・構築物 (千円)	機械、運搬具 及び工具器具 備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
本社 (群馬県高崎市)	建設事業	事務所等	408,715	7,409	976,002 (7,538.73)	34,883	1,427,010	186
太田支店 (群馬県太田市)	建設事業	事務所等	12,472	0	179,083 (1,627.61)	—	191,555	27
埼玉支店 (埼玉県熊谷市)	建設事業	事務所	4,288	333	71,335 (648.50)	—	75,956	19
藤田デバイス株式 会社 本社 (群馬県高崎市)	電子部品製造事業	半導体等製 造設備	47,089	86	93,101 (3,067.14)	—	140,276	—

### (2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物・構築物 (千円)	機械、運搬具 及び工具器具 備品 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	合計 (千円)	
藤田テクノ 株式会社	本社 (群馬県高崎 市)	機器のメンテナ ンス事業	事務所等	112,936	9,086	— (—)	—	122,023	78
	太田支店 (群馬県太田 市)	機器のメンテナ ンス事業	事務所等	109,042	470	232,678 (1,180.04)	—	342,191	20
藤田デバイ ス株式会社	本社 (群馬県高崎 市)	電子部品製造事業	半導体等 製造設備	24,641	103,501	— (—)	52,161	180,304	42 [21]
	佐久工場 (長野県佐久 市)	電子部品製造事業	半導体等 製造設備	201,929	11,735	333,527 (8,438.46)	—	547,192	34 [4]

- (注) 1. 上記金額には消費税等を含んでおりません。  
 2. 従業員数は就業人員であり、準社員は [ ] 内に年間の平均人員を外書きしております。  
 3. 提出会社の電子部品製造事業の設備は、100%子会社である藤田デバイス(株)に賃貸しております。  
 4. 提出会社は建物・構築物及び土地の一部を連結会社以外から賃借しており、年間賃借料は46百万円でありま  
 す。  
 5. 国内子会社の藤田デバイス(株)は、佐久工場の建物の一部を連結会社以外に賃貸しており、年間賃貸料は9百  
 万円であります。  
 6. 現在休止中の主要な設備はありません。

7. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	数量	リース期間	年間リース料(千円)
藤田デバイ ス株式会社	本社 (群馬県高崎市)	電子部品製造事 業	ウエハー外観検査 装置	一式	12ヵ月	919
	佐久工場 (長野県佐久市)	電子部品製造事 業	フルオートマチック ダイシングソー	一式	12ヵ月	946

(注) 全て所有権移転外ファイナンス・リースであります。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、改修の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,700,000	11,700,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,700,000	11,700,000	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### ② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### ③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2003年8月31日(注)	10,000	11,700,000	1,130	1,029,213	1,120	805,932

(注) 旧商法の規定に基づく新株引受権の行使による増加

## (5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況 （株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	7	13	31	24	—	1,382	1,457	—
所有株式数（単元）	—	7,341	240	12,290	3,289	—	93,824	116,984	1,600
所有株式数の割合（%）	—	6.27	0.20	10.50	2.81	—	80.20	100.00	—

（注）自己株式2,588,753株は、「個人その他」に25,887単元及び「単元未満株式の状況」に53株を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 （千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 （%）
藤田 実	群馬県高崎市	2,304	25.30
藤田エンジニアリング先持株会	群馬県高崎市飯塚町1174番地5	872	9.57
日東興産株式会社	群馬県高崎市飯塚町1174番地5	699	7.68
藤田社員持株会	群馬県高崎市飯塚町1174番地5	487	5.35
株式会社群馬銀行	群馬県前橋市元総社町194番地	400	4.39
内藤 征吾	東京都中央区	346	3.80
群馬土地株式会社	群馬県前橋市本町二丁目13番11号	240	2.63
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地七丁目18番24号	150	1.65
INTERACTIVE BROKERS LLC （常任代理人 インタラクティブ・ブローカーズ証券株式会社）	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH, CONNECTICUT 06830 USA （東京都千代田区霞が関三丁目2番5号）	147	1.62
株式会社ヤマト	群馬県前橋市古市町118番地	130	1.43
計	—	5,779	63.43

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 2,588,700	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 9,109,700	91,097	—
単元未満株式	普通株式 1,600	—	1 単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	11,700,000	—	—
総株主の議決権	—	91,097	—

② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
藤田エンジニアリング㈱	群馬県高崎市飯塚町 1174番地5	2,588,700	—	2,588,700	22.13
計	—	2,588,700	—	2,588,700	22.13

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (譲渡制限付株式報酬制度に係る処分)	8,800	7,110,400	—	—
保有自己株式数	2,588,753	—	2,588,753	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する安定的かつ積極的な株主還元を継続して実施していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当については、上記基本方針をもとに1株につき30円(うち中間配当15円)を実施することを決定致しました。

内部留保資金については、今後の事業展開へ向けた財務体質と経営基盤の強化に活用して、更なる事業の拡大に努めてまいり所存であります。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2019年11月13日 取締役会決議	136,668	15
2020年6月26日 定時株主総会決議	136,668	15

#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

###### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスは長期的な企業価値を最大化させるための経営体制を規律するとともに、株主をはじめとするステークホルダーに対する説明責任を果たすために不可欠なものと考えております。こうした考えのもと、経営の透明性及び信頼性を確保するため、内部監査体制の強化や取締役会・監査役会の機能強化等を継続的に実施することにより、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

###### ② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

定例の取締役会、必要に応じて開催される臨時取締役会は、代表取締役藤田実を議長とし、取締役である鈴木昇司、須藤久実、泉典浩、北嶋忠継、長素啓、五十嵐富三郎（社外取締役）の7名で構成されております。取締役会は、法令で定められた事項について決議するとともに、取締役の職務が法令や経営方針に従い執行されていることを監視する機能を果たしております。

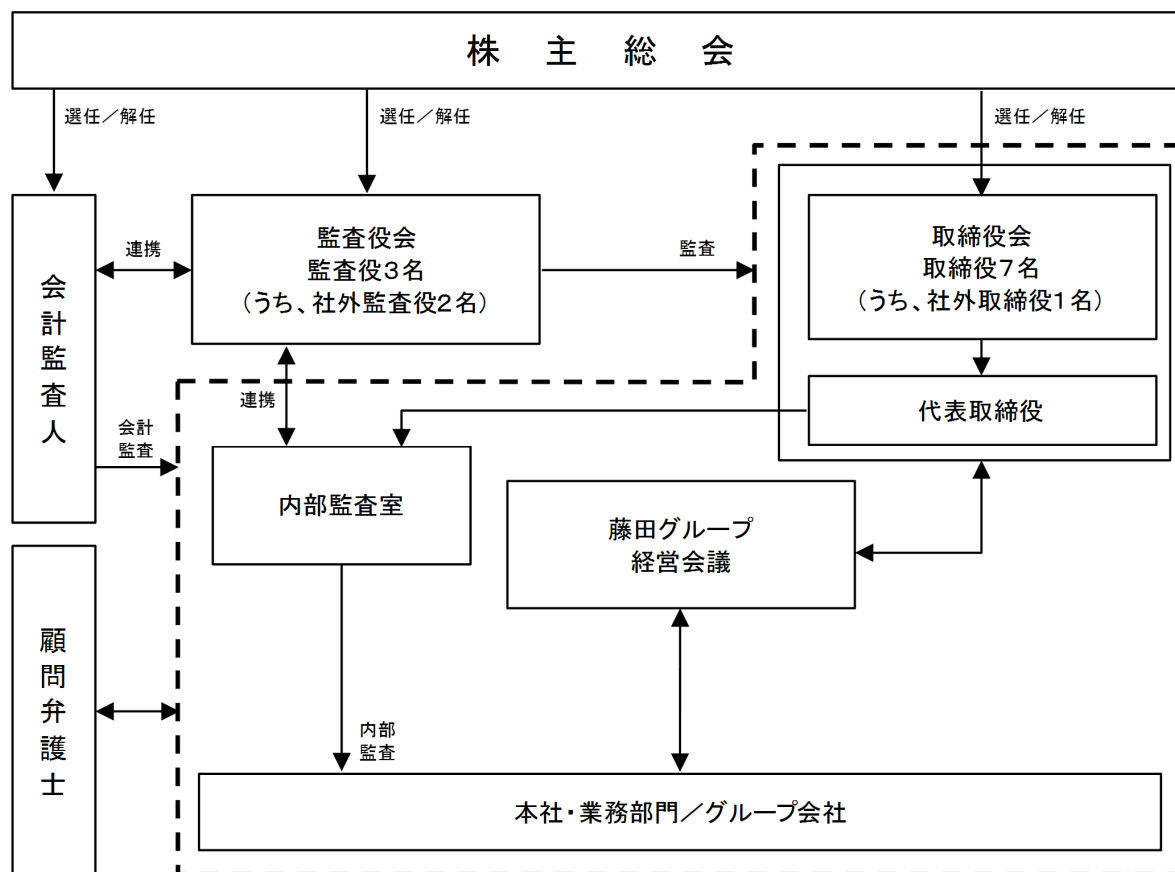
監査役会は、常勤監査役清水耕司をはじめ、監査役である室賀康志（社外監査役）、信澤山洋（社外監査役）の3名で構成され、取締役会への出席等を通じて取締役の職務執行を監査しております。

また、代表取締役を議長とする藤田グループ経営会議（社外取締役を除く当社取締役6名のほか、子会社の代表取締役等4名を加えた10名で構成）は常勤監査役出席のもと、グループ各社の経営状況や利益計画の進捗を管理するとともに、業務の適正性を確保するための内部統制システムに関する協議や情報共有を推進し、全社横断的なコンプライアンス体制の発展的整備に努めております。

なお、法律上の判断を要する問題に関しましては、顧問弁護士に助言、指導を求めています。

以上により当社はコーポレート・ガバナンスの適切性を確保しており、現時点では本体制が適当であると判断しております。

（コーポレート・ガバナンス及び内部管理統制の模式図）



###### ③ 企業統治に関するその他の事項

###### ・内部統制システムの整備の状況

当社は企業の存続の根幹をなすものは企業倫理であるとの認識を持ち、社会からの信頼を獲得し長期的に企業価値を高めるべく、経営の透明性・効率性を確保し、関連法規を遵守していくことが経営の基本と考えております。そのためには、内部統制の整備とその適切な運用が不可欠であると考え、これを推進しております。

- ・リスク管理体制の整備の状況
  - 企業活動に伴う様々なリスクに対しては、「経営リスク管理規定」及び「危機管理規定」に不測の事態が発生した場合の対応機関等、即応する体制と対処策を定めることにより、被害・損害の極小化を図っております。
  - また、情報セキュリティについては、「情報システム管理規定」を制定し、周知させることで、セキュリティの確保を図っております。
  - さらに、当社グループの全役職員が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるために、「倫理行動基準」を含む「藤田グループ行動理念」を定め、これを小冊子にして全役職員へ配付し、当該理念の周知徹底を図っております。
- ・子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況
  - 当社のグループ会社に関する管理は、「グループ会社管理規定」に基づき行い、グループ会社の経営内容を的確に把握するため重要な事項については、藤田グループ経営会議に報告する体制としております。
- ・責任限定契約の内容の概要
  - 当社は、社外取締役及び社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がない場合に限られます。
- ・取締役の定数
  - 当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。
- ・取締役の選任の決議要件
  - 当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数の決議をもってこれを行う旨、及び累積投票によらない旨を定款に定めております。
- ・取締役会で決議できる株主総会決議事項
  - イ. 自己の株式の取得
    - 当社は、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式の取得をすることができる旨を定款に定めております。
  - ロ. 取締役及び監査役の責任免除
    - 当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。
  - ハ. 中間配当
    - 当社は、株主の機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。
- ・株主総会の特別決議要件
  - 株主総会の円滑な運営を目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。
- ・株式会社の支配に関する基本方針
  - 当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、特に定めておりません。

## (2) 【役員の状況】

## ① 役員一覧

男性10名 女性一名 (役員のうち女性の比率-%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	藤田 実	1961年8月20日生	1989年4月 当社入社 1997年6月 当社取締役就任 2001年4月 当社常務取締役就任 2002年10月 藤田デバイス株式会社代表取締役社長就任 2004年6月 藤田テクノ株式会社代表取締役社長就任(現任) 2005年4月 当社代表取締役社長就任(現任) 藤田情報システム株式会社(現藤田ソリューションパートナーズ株式会社)代表取締役社長就任(現任) 2012年6月 FUJITA ENGINEERING ASIA PTE. LTD. 取締役就任(現任) 2020年4月 藤田デバイス株式会社代表取締役会長就任(現任)	注3	2,304
専務取締役	鈴木 昇司	1954年2月5日生	1974年4月 当社入社 2007年4月 当社執行役員産業設備部長 2007年6月 当社取締役兼執行役員就任 2010年6月 当社取締役兼常務執行役員営業本部長就任 2012年4月 当社常務取締役営業本部長就任 2013年6月 当社専務取締役就任(現任)	注3	24
常務取締役 経営管理本部長	須藤 久実	1962年3月23日生	1989年7月 当社入社 2005年4月 当社経理部長 2013年4月 当社企画経理副本部長 2013年6月 当社取締役企画経理本部長就任 2015年4月 当社取締役経営管理本部長就任 2018年6月 当社常務取締役経営管理本部長就任(現任)	注3	4
取締役 技術本部長	泉 典浩	1962年7月9日生	1981年3月 当社入社 2008年4月 当社工事部長 2014年4月 当社工事副本部長 2015年6月 当社取締役工事本部長就任 2016年4月 当社取締役技術本部長就任(現任)	注3	12
取締役 営業本部長	北嶋 忠継	1964年11月18日生	1989年4月 当社入社 2008年4月 当社営業部長 2012年4月 当社営業副本部長 2017年6月 当社取締役営業本部長就任(現任)	注3	3



役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	長 素啓	1966年3月15日生	2001年2月 当社入社 2011年4月 当社工事統括部長 2019年6月 当社取締役工事統括部長就任 (現任)	注3	1
取締役	五十嵐 富三郎	1950年12月23日生	1974年4月 株式会社群馬銀行入行 2007年6月 同行取締役兼執行役員 2009年6月 同行常務取締役 2011年6月 同行専務取締役 2014年6月 同行顧問 群馬土地株式会社代表取締役社 長 2015年6月 当社取締役就任(現任) 2017年6月 群馬土地株式会社顧問 2017年7月 サンデンホールディングス株式 会社理事(現任)	注3	—
監査役 (常勤)	清水 耕司	1951年2月20日生	1980年7月 藤田電機株式会社入社 2006年4月 藤田ソリューションパートナー ズ株式会社企画部長 2007年4月 当社経営企画部内部統制プロジ ェクト担当部長 2007年10月 当社内部監査室長 2011年6月 当社監査役就任(現任)	注4	—
監査役	室賀 康志	1962年1月23日生	1987年4月 第一東京弁護士会弁護士登録 丸尾法律事務所入所 1992年4月 群馬弁護士会登録換 室賀法律事務所開設 2007年6月 当社監査役就任(現任)	注4	—
監査役	信澤 山洋	1974年12月8日生	1996年10月 監査法人トーマツ(現有限責任 監査法人トーマツ)入所 2008年9月 信澤公認会計士事務所開設、所 長(現任) 2015年6月 当社監査役就任(現任) 2020年3月 株式会社ビー・ワイ・オー社外 取締役就任(現任)	注4	—
計					2,351

- (注) 1. 取締役五十嵐富三郎は、社外取締役であります。  
2. 監査役室賀康志及び信澤山洋は、社外監査役であります。  
3. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結のときから2年間であります。  
4. 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結のときから4年間であります。

② 社外役員の状況

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役五十嵐富三郎は、当社株式を4.39%保有（2020年3月31日現在）する株式会社群馬銀行の専務取締役及び顧問、当社株式を2.63%保有（2020年3月31日現在）する群馬土地株式会社の代表取締役社長等の要職を歴任し、現在はサンデンホールディングス株式会社の理事を務めております。株式会社群馬銀行は当社の主要な借入先であります。当社の同行からの借入金の総資産に占める割合は2.8%と僅少であり、群馬土地株式会社と当社との間には重要な取引はありません。また、サンデンホールディングス株式会社を含むサンデングループと当社との間には工事請負等の取引がありますが、条件面は他の取引先と同様であり、当社売上高に占める割合はサンデングループ全体で1.6%と多いものではありません。以上から同氏と当社との関係性に特別な利害はなく、当社は同氏の経営者としての豊富な経験が経営の透明性確保や向上に繋がるものと判断し、社外取締役に選任しております。

社外監査役室賀康志は、室賀法律事務所所長を務める弁護士であります。同氏は、弁護士としての専門的見地から2007年6月より当社の社外監査役として経営陣と独立した立場で監査役業務を遂行しております。当社と室賀法律事務所及び同氏の間には、出資関係、取引関係、その他利害関係はありません。

社外監査役信澤山洋は、信澤公認会計士事務所所長を務める公認会計士であります。同氏は、公認会計士として、豊富な経験と知識を有しており、客観的、かつ、中立的な立場からの意見は当社の監査機能強化に繋がるものと判断し社外監査役に選任しております。現在同氏は、株式会社ビー・ワイ・オーの社外取締役に務めておりますが、当社と信澤公認会計士事務所及び同氏並びに株式会社ビー・ワイ・オーの間には、出資関係、取引関係、その他利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する明確な基準または方針を設定していませんが、その選任に際しては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社の経営に対して客観的な視点で職務を遂行できる高い独立性を有し、一般株主と利益相反が生じる恐れのないことを前提に判断しております。また、これをもって当社は上記3氏を株式会社東京証券取引所に独立役員として届け出を行っております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会に出席し必要な情報を収集するとともに適宜質問や提言を行うほか、社外監査役と意見交換を行う等連携を図ることにより、当社経営に対する監督を行っております。

社外監査役は、取締役会に出席し客観的な立場から意見陳述を行うとともに、内部統制システムの状況を監視しております。また、監査役会において内部監査室からの統制状況に関する報告を受けることにより、相互に連携して効率的な監査を行っております。さらに会計監査人とは監査の妥当性と有効性を高めるため、意見交換を行う場を設けております。

### (3) 【監査の状況】

#### ① 監査役監査の状況

監査役監査は、監査役3名（2020年6月26日現在）と監査役監査がより有効に機能するための監査役付担当者を配置し、監査を実施しております。監査役は取締役会のほか、藤田グループ経営会議等の重要性の高い会議に出席し、客観的な立場から意見陳述を行うとともに、内部統制システムの状況を監視しております。監査役信澤山洋（社外監査役）は公認会計士であり、財務及び会計に関する豊富な経験と知識を有しております。常勤監査役の清水耕司は、当社の内部統制推進プロジェクト部長等を歴任し、長年にわたり監査業務に従事しており、常勤者としての特性を踏まえ、内部統制システムの運用状況を日常的に検証するとともに、他の監査役と情報の共有及び意思の疎通を図っております。

会計監査人からは定期的または適宜に会計監査等の報告を受け、さらに会計監査人とは監査の妥当性と有効性を高めるため、意見交換を行う場を設けております。なお、当事業年度におきましては、監査役会を8回開催しております。

当事業年度における各監査役の活動状況は以下のとおりであります。

氏名	主な活動状況
常勤監査役 清水 耕司	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査役会8回のうち8回出席し、その他経営会議等の重要会議への参加及び重要書類の閲覧などを適宜行っております。
社外監査役 室賀 康志	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査役会8回のうち8回出席し、主に弁護士としての専門的見地から適宜必要な発言を行っております。
社外監査役 信澤 山洋	当事業年度に開催された取締役会7回のうち7回、監査役会8回のうち8回出席し、主に公認会計士としての豊富な経験と専門的見地から適宜必要な発言を行っております。

・当事業年度の監査役会においては、監査計画に関する事項（監査の方針、監査の方法、監査役職務分担）、会計監査人の監査の評価、再任・不再任及び報酬に関する事項、また、監査報告書の作成に関する事項等について主に審議しております。

#### ② 内部監査の状況

内部監査は内部監査室4名（2020年6月26日現在）が担当しております。内部監査室は期初に会社の経営方針に則り監査計画を立案し、計画に沿って当社及びグループ各社に対し内部監査を実施しております。特に法令、定款、経営方針及び規定等に準拠し、適正に業務が遂行されているか否かを内部監査の主眼に据え、必要に応じて勧告を行い、内部統制の充実に努めております。監査役会に対しては、計画の進捗状況、内部監査の実施状況を報告し、また、監査役会からは適宜情報を受け、重要な事項については両者で意見交換を行うなど連携を図っており、会計監査人とは財務報告に関する内部統制に関して定期的な進捗状況の報告等を通じて連携を図っております。

#### ③ 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

##### b. 継続監査期間

24年間

（注）上記の期間は調査が困難であるため、「登録申請のための有価証券報告書」にある監査報告書の日付を開始日として記載しており、実際の継続期間はこれを超える可能性があります。

##### c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 矢野浩一

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 藤野竜男

なお、上記両名とも、継続監査年数が7年を超えないため継続監査年数の記載は省略しております。

##### d. 監査業務に係る補助者の構成

監査業務に係る補助者は公認会計士4名、会計士試験合格者等3名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査役会が有限責任監査法人トーマツを会計監査人として選定した理由は、同監査法人の独立性、専門性及び監査の品質等を総合的に勘案し、当社の会計監査が適正に行われることを確保する体制を備えていると判断したためであります。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、監査法人が当社の監査業務を適正に実施できる体制であること、独立性及び必要な専門性を有すること、監査範囲及び監査計画の妥当性、監査実績などを総合的に評価しております。

④ 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	28	—	29	0
連結子会社	—	—	—	—
計	28	—	29	0

当社における非監査業務の内容は、収益認識に関する会計基準の適用に関する助言・指導業務についての対価であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a. を除く）

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません

d. 監査報酬の決定方針

監査時間、監査業務内容等を勘案した上で決定しております。なお、決定にあたっては会社法第399条第1項及び第2項に基づき、監査役会の同意を得ております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、有限責任監査法人トーマツの報酬等について、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積り算出根拠などが適切であると判断し、これに同意いたしました。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、役員の報酬等について明確な算定方法や指標を定めておりませんが、基本報酬部分に関しては、経営環境や他社の水準等を考慮の上、役位・職責に応じて設定しており、役員賞与については、受注・売上高、営業利益などの業績や職務の評価を、譲渡制限付株式報酬については、中長期的な企業価値向上に対する士気等を勘案して設定しております。

また、役員退職慰労金については職位に基づき引当金を計上しております。

取締役の報酬等の総額は、1990年5月18日開催の第27期定時株主総会において、年額200百万円以内（定款で定める取締役の員数は20名以内）、監査役の報酬等の総額は、1997年6月27日開催の第34期定時株主総会において、年額20百万円以内（定款で定める監査役の員数は5名以内）と決議しております。また、2018年6月28日開催の第55期定時株主総会において、取締役（社外取締役を除く。）を対象に譲渡制限付株式報酬制度を導入し、その総額は別枠で年額50百万円以内と決議しております。

取締役の基本報酬、役員賞与及び譲渡制限付株式報酬等の決定権限は代表取締役が有しており、監査役の報酬等は監査役会の協議によって決定しております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額（千円）				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	譲渡制限付株 式報酬	役員賞与 引当金繰入額	役員退職慰労 引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	123,752	82,200	5,252	27,000	9,300	6
監査役 (社外監査役を除く。)	7,050	6,600	—	—	450	1
社外役員	5,670	5,160	—	—	510	3

③ 役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動内容

取締役会は、報酬等が総額として業績等を踏まえた妥当性のあるものであり、株主総会において決議された範囲内であることを確認し、承認しております。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式を保有目的が純投資であるものと純投資以外であるものとに区分しております。前者については専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とし、後者については政策保有株式として事業上の長期的な関係の維持・強化による当社の企業価値の向上を目的としております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は取引先との関係を維持・強化することにより当社の事業が持続的に成長し、また地域経済社会との良好な関係の促進を図ることが、より安定した企業経営に資するとの認識のもと株式の保有を決定しており、事業上の関係がない企業の株式は所有しないことを基本としております。

政策保有株式については上記方針を踏まえ、さらに投資先の業績、株式評価損益、配当金、取引実績及び当社の事業環境等を総合的に検証し、当該投資が適っているか否かを取締役会において判定しております。その上で保有意義が薄れたと判断される場合は、処分・縮減を行ってまいります。

なお、当事業年度におきましては、株式の保有について取締役会で二度の検証・検討を行っており、すべての政策保有株式について継続保有の妥当性を確認しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	6	16,386
非上場株式以外の株式	12	700,251

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	6	14,545	取引先持株会等を通じた株式の取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	—	—

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
 特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
太陽誘電(株)	131,227	129,190	(保有目的)円滑な取引関係の維持 (株式数の増加理由)取引先持株会を通 じた株式の取得	無
	375,440	281,247		
(株)SUBARU	40,531	38,563	(保有目的)円滑な取引関係の維持 (株式数の増加理由)取引先持株会を通 じた株式の取得	無
	84,041	97,276		
(株)ヤマト	132,000	132,000	(保有目的)円滑な取引関係の維持	有
	83,952	64,812		
(株)日立製作所	12,830	12,830	(保有目的)円滑な取引関係の維持	無
	40,324	45,995		
日本化薬(株)	32,187	31,119	(保有目的)円滑な取引関係の維持 (株式数の増加理由)取引先持株会を通 じた株式の取得	無
	32,026	40,704		
(株)群馬銀行	86,206	83,010	(保有目的)主要取引銀行であり、円滑 な取引関係の維持 (株式数の増加理由)株式累積投資によ る取得	有
	28,275	34,781		
群栄化学工業(株)	9,263	8,795	(保有目的)円滑な取引関係の維持 (株式数の増加理由)取引先持株会を通 じた株式の取得	前事業年度：有 当事業年度：無
	22,676	22,736		
サンデンホールデ ィングス(株)	30,242	30,242	(保有目的)円滑な取引関係の維持	無
	10,947	22,802		
(株)三井住友フィナ ンシャルグループ	4,100	4,100	(保有目的)主要取引銀行であり、円滑 な取引関係の維持	無
	10,754	15,891		
佐田建設(株)	20,000	20,000	(保有目的)円滑な取引関係の維持	無
	6,520	7,740		
日立金属(株)	4,201	4,201	(保有目的)円滑な取引関係の維持	無
	4,784	5,402		
(株)小島鉄工所	1,937	1,936	(保有目的)円滑な取引関係の維持 (株式数の増加理由)取引先持株会を通 じた株式の取得	無
	507	2,031		

(注) 定量的な保有効果につきましては、取引先との関係性を考慮し記載しておりませんが、「(5) 株式の保有状況  
 ② a.」に記載の通り、個別銘柄毎に保有の合理性を検証しており、当事業年度末において保有する政策保有  
 株式はいずれも保有目的に適合していることを確認しております。

- ③ 保有目的が純投資目的である投資株式  
 該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）の連結財務諸表及び事業年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構が主催する研修会に参加しております。



1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	※2 5,829,867	※2 7,747,610
受取手形	671,162	695,144
電子記録債権	1,470,562	1,683,877
完成工事未収入金	5,364,341	5,407,360
売掛金	2,636,183	2,485,842
有価証券	999,967	200,000
未成工事支出金	205,388	208,928
商品	110,349	101,294
仕掛品	651,663	555,974
材料貯蔵品	28,148	22,528
その他	207,809	198,006
貸倒引当金	△8,624	△8,335
流動資産合計	18,166,817	19,298,231
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	※2 3,485,426	※2 3,404,795
減価償却累計額	△2,480,622	△2,494,128
建物・構築物（純額）	※2 1,004,803	※2 910,667
機械、運搬具及び工具器具備品	700,714	741,428
減価償却累計額	△550,666	△593,407
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	150,047	148,020
土地	※2 2,208,232	※2 2,033,207
リース資産	80,724	111,038
減価償却累計額	△35,414	△23,992
リース資産（純額）	45,310	87,045
有形固定資産合計	3,408,394	3,178,940
無形固定資産	110,964	94,217
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 1,465,514	※1 1,918,218
長期貸付金	218,358	214,994
繰延税金資産	412,808	398,606
その他	※2 155,466	※2 153,087
貸倒引当金	△218,726	△215,779
投資その他の資産合計	2,033,421	2,469,128
固定資産合計	5,552,780	5,742,285
資産合計	23,719,598	25,040,517

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	2,954,004	2,591,013
工事未払金	2,596,779	3,268,962
買掛金	※2 1,933,501	※2 1,931,050
短期借入金	※2 755,000	※2 805,000
リース債務	10,278	21,681
未払法人税等	481,362	464,777
未成工事受入金	247,077	260,340
完成工事補償引当金	17,600	14,586
賞与引当金	248,929	234,451
役員賞与引当金	50,000	48,700
工事損失引当金	312	14,952
その他	892,422	837,843
流動負債合計	10,187,267	10,493,360
固定負債		
リース債務	35,283	68,667
役員退職慰労引当金	92,580	102,840
退職給付に係る負債	1,116,899	1,186,733
その他	8,103	8,103
固定負債合計	1,252,866	1,366,344
負債合計	11,440,134	11,859,704
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,029,213	1,029,213
資本剰余金	809,159	812,071
利益剰余金	11,424,997	12,282,816
自己株式	△1,239,195	△1,234,998
株主資本合計	12,024,173	12,889,102
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	198,361	234,115
為替換算調整勘定	56,928	57,594
その他の包括利益累計額合計	255,289	291,710
純資産合計	12,279,463	13,180,812
負債純資産合計	23,719,598	25,040,517

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	29,070,881	29,087,314
売上原価	※ 24,541,862	※ 24,711,330
売上総利益	4,529,019	4,375,983
販売費及び一般管理費		
役員報酬	164,228	168,910
役員賞与引当金繰入額	50,000	49,700
従業員給料手当	1,262,956	1,287,841
賞与引当金繰入額	81,266	81,347
退職給付費用	71,837	72,435
役員退職慰労引当金繰入額	9,485	10,260
法定福利費	230,047	234,410
通信交通費	119,096	113,686
貸倒引当金繰入額	△451	408
減価償却費	60,219	58,982
雑費	545,762	539,112
販売費及び一般管理費合計	2,594,448	2,617,095
営業利益	1,934,570	1,758,888
営業外収益		
受取利息	3,374	6,999
受取配当金	15,997	17,296
仕入割引	6,919	6,691
受取褒賞金	20,015	19,001
固定資産賃貸料	14,984	14,745
保険配当金	3,413	5,908
受取手数料	11,503	9,484
補助金収入	4,741	3,334
受取保険金	10,289	1,452
貸倒引当金戻入額	71,519	—
雑収入	28,530	11,361
営業外収益合計	191,288	96,276
営業外費用		
支払利息	4,192	5,581
固定資産除却損	4,404	177
固定資産賃貸費用	3,015	2,631
為替差損	6,646	15,220
支払保証料	739	642
損害賠償金	100	50
雑支出	61	169
営業外費用合計	19,160	24,473
経常利益	2,106,699	1,830,691
特別損失		
投資有価証券評価損	—	18,042
子会社株式売却損	—	55,368
特別損失合計	—	73,410
税金等調整前当期純利益	2,106,699	1,757,280
法人税、住民税及び事業税	667,403	657,880
法人税等調整額	△37,908	△31,624
法人税等合計	629,495	626,256
当期純利益	1,477,204	1,131,023
親会社株主に帰属する当期純利益	1,477,204	1,131,023

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	1,477,204	1,131,023
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△65,391	35,754
為替換算調整勘定	2,008	666
その他の包括利益合計	※ △63,383	※ 36,420
包括利益	1,413,820	1,167,444
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,413,820	1,167,444
非支配株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,029,213	805,932	10,220,762	△1,242,534	10,813,372
当期変動額					
剰余金の配当			△272,968		△272,968
親会社株主に帰属する当期純利益			1,477,204		1,477,204
自己株式の処分		3,227		3,339	6,566
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	3,227	1,204,235	3,339	1,210,801
当期末残高	1,029,213	809,159	11,424,997	△1,239,195	12,024,173

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	263,752	54,920	318,673	11,132,045
当期変動額				
剰余金の配当				△272,968
親会社株主に帰属する当期純利益				1,477,204
自己株式の処分				6,566
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△65,391	2,008	△63,383	△63,383
当期変動額合計	△65,391	2,008	△63,383	1,147,418
当期末残高	198,361	56,928	255,289	12,279,463

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,029,213	809,159	11,424,997	△1,239,195	12,024,173
当期変動額					
剰余金の配当			△273,205		△273,205
親会社株主に帰属する当期純利益			1,131,023		1,131,023
自己株式の処分		2,912		4,197	7,110
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	2,912	857,818	4,197	864,928
当期末残高	1,029,213	812,071	12,282,816	△1,234,998	12,889,102

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	198,361	56,928	255,289	12,279,463
当期変動額				
剰余金の配当				△273,205
親会社株主に帰属する当期純利益				1,131,023
自己株式の処分				7,110
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,754	666	36,420	36,420
当期変動額合計	35,754	666	36,420	901,349
当期末残高	234,115	57,594	291,710	13,180,812

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,106,699	1,757,280
減価償却費	188,405	185,294
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△71,971	416
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△1,038	△3,014
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△16,611	△4,787
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,000	△300
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△4,880	14,640
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	9,485	10,260
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	62,479	90,652
受取利息及び受取配当金	△19,371	△24,296
支払利息	4,192	5,581
子会社株式売却損益 (△は益)	—	55,368
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	18,042
損害賠償損失	100	50
売上債権の増減額 (△は増加)	1,454,432	△243,281
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△207,254	71,131
仕入債務の増減額 (△は減少)	242,658	360,259
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	94,643	13,263
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△19,147	19,147
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△104,961	91,190
その他の資産の増減額 (△は増加)	126,069	19,627
その他の負債の増減額 (△は減少)	119,571	△121,216
小計	3,962,502	2,315,308
利息及び配当金の受取額	19,371	24,806
利息の支払額	△4,346	△5,692
損害賠償金の支払額	△100	△50
法人税等の支払額	△948,056	△674,915
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,029,370	1,659,456
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△150,673	△110,016
投資有価証券の取得による支出	△416,624	△417,227
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	238,302
貸付金の回収による収入	71,519	—
その他の支出	△52,672	△15,144
その他の収入	2,778	420
投資活動によるキャッシュ・フロー	△545,672	△303,665
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	450,000	500,000
短期借入金の返済による支出	△480,000	△450,000
リース債務の返済による支出	△10,675	△12,547
配当金の支払額	△271,922	△273,194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△312,598	△235,742
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,675	△2,273
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,167,424	1,117,775
現金及び現金同等物の期首残高	4,357,409	6,524,834
現金及び現金同等物の期末残高	※ 6,524,834	※ 7,642,610

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 6社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。  
前連結会計年度において連結子会社であったシステムハウスエンジニアリング㈱は、2020年3月30日付で全株式を譲渡したため、当連結会計年度末をみなし売却日として連結の範囲から除いております。

#### (2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

(株)藤田ビジコン、日本ルフト㈱

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法を適用した非連結子会社及び関連会社はありません。

#### (2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の名称等

非連結子会社の名称

(株)藤田ビジコン、日本ルフト㈱

関連会社の名称

THANG UY TRADING CO., LTD

(持分法を適用していない理由)

持分法を適用していない非連結子会社または関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
FUJITA ENGINEERING ASIA PTE. LTD.	12月31日
FUJITA TECHNO MALAYSIA SDN. BHD.	12月31日
藤田テクノ㈱	3月20日

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に重要な取引が生じた場合には、連結上必要な調整を行うこととしております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

##### (イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

##### (ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② たな卸資産

未成工事支出金

個別法による原価法

商品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

材料貯蔵品

最終仕入原価法



(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物31～50年、建物附属設備12～15年であります。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、自社利用のソフトウェア5年であります。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

② 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、完成工事高に対する将来の見積補償額を計上しております。

③ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

④ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

⑤ 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

⑥ 役員退職慰労引当金

当社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る連結会計年度末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、10,813,212千円であります。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産及び負債、収益及び費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまでわが国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされており

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症につきましては、その終息時期が見通せない状況にありますが、これにより企業収益が悪化し、大幅に設備投資が抑制された場合には、受注の減少等を通じて翌連結会計年度以降の連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、現時点での会計上の見積りに当たっては、翌連結会計年度の第2四半期以降、経済活動が次第に回復することを想定しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	48,306千円	47,940千円

※2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
現金預金	120,000千円	120,000千円
建物・構築物	19,133	17,593
土地	90,825	90,825
投資その他の資産の「その他」(差入保証金)	5,726	5,782
計	235,684	234,201

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
買掛金	91,000千円	91,000千円
短期借入金	320,000	320,000
計	411,000	411,000

3 当社及び連結子会社1社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
当座貸越極度額	2,570,000千円	2,570,000千円
借入実行残高	750,000	800,000
差引額	1,820,000	1,770,000

(連結損益計算書関係)

※ 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	312千円	14,952千円

## (連結包括利益計算書関係)

## ※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△93,626千円	35,843千円
組替調整額	—	18,042
税効果調整前	△93,626	53,885
税効果額	28,235	△18,131
その他有価証券評価差額金	△65,391	35,754
為替換算調整勘定：		
当期発生額	2,008	666
その他の包括利益合計	△63,383	36,420

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数 (千株)	当連結会計年度増 加株式数 (千株)	当連結会計年度減 少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	11,700	—	—	11,700
合計	11,700	—	—	11,700
自己株式				
普通株式 (注)	2,604	—	7	2,597
合計	2,604	—	7	2,597

(注) 自己株式の減少7千株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	136,431	15	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月13日 取締役会	普通株式	136,536	15	2018年9月30日	2018年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	136,536	利益剰余金	15	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数 (千株)	当連結会計年度増 加株式数 (千株)	当連結会計年度減 少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	11,700	—	—	11,700
合計	11,700	—	—	11,700
自己株式				
普通株式 (注)	2,597	—	8	2,588
合計	2,597	—	8	2,588

(注) 自己株式の減少8千株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	136,536	15	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年11月13日 取締役会	普通株式	136,668	15	2019年9月30日	2019年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	136,668	利益剰余金	15	2020年3月31日	2020年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
現金預金勘定	5,829,867千円	7,747,610千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△305,000	△305,000
有価証券勘定に含まれるコマーシャルペーパー	999,967	—
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	—	200,000
現金及び現金同等物	6,524,834	7,642,610

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産

主として、建設事業における情報機器(機械、運搬具及び工具器具備品)であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金及び安全性の高い金融資産に限定しており、資金調達については、銀行等金融機関からの借入金による方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、電子記録債権、完成工事未収入金及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の経理規定に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況を定期的または随時に把握することにより、その低減を図っております。連結子会社についても、当社の経理規定に準じて、同様の管理を行っております。

有価証券及び投資有価証券は株式等であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的の時価や発行体の財務状況等を把握しております。

長期貸付金は、貸付先の信用リスクに晒されているため、貸付先の財務状況を定期的または随時に把握しております。

営業債務である支払手形、工事未払金及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

短期借入金は主に運転資金に係る資金調達であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達であり、償還日は最長で決算日後4年11ヶ月であります。

また、営業債務や借入金、リース債務は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金預金	5,829,867	5,829,867	—
(2) 受取手形	671,162	671,162	—
(3) 電子記録債権	1,470,562	1,470,562	—
(4) 完成工事未収入金	5,364,341	5,364,341	—
(5) 売掛金	2,636,183		
貸倒引当金(*1)	△158		
	2,636,024	2,636,024	—
(6) 有価証券及び投資有価証券			
①満期保有目的の債券	1,699,967	1,702,038	2,071
②その他有価証券	700,821	700,821	—
(7) 長期貸付金	218,358		
貸倒引当金(*2)	△218,358		
	—	—	—
資産計	18,372,745	18,374,816	2,071
(1) 支払手形	2,954,004	2,954,004	—
(2) 工事未払金	2,596,779	2,596,779	—
(3) 買掛金	1,933,501	1,933,501	—
(4) 短期借入金	755,000	755,000	—
(5) 未払法人税等	481,362	481,362	—
(6) リース債務（1年内返済予定のリース債務含む）	45,562	45,741	179
負債計	8,766,209	8,766,388	179

(\*1) 売掛金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 長期貸付金に対応する個別貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（2020年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金預金	7,747,610	7,747,610	—
(2) 受取手形	695,144	695,144	—
(3) 電子記録債権	1,683,877	1,683,877	—
(4) 完成工事未収入金	5,407,360	5,407,360	—
(5) 売掛金	2,485,842	2,485,842	—
(6) 有価証券及び投資有価証券			
①満期保有目的の債券	1,100,000	1,094,200	△5,799
②その他有価証券	953,892	953,892	—
(7) 長期貸付金	214,994		
貸倒引当金(*1)	△214,994		
	—	—	—
資産計	20,073,727	20,067,927	△5,799
(1) 支払手形	2,591,013	2,591,013	—
(2) 工事未払金	3,268,962	3,268,962	—
(3) 買掛金	1,931,050	1,931,050	—
(4) 短期借入金	805,000	805,000	—
(5) 未払法人税等	464,777	464,777	—
(6) リース債務（1年内返済予定のリース債務含む）	90,348	90,916	567
負債計	9,151,153	9,151,721	567

(\*1)長期貸付金に対応する個別貸倒引当金を控除しております。



(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

- (1) 現金預金、(2) 受取手形、(3) 電子記録債権、(4) 完成工事未収入金、(5) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (6) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格等によっております。

合同運用指定金銭信託については、すべて短期であるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

- (7) 長期貸付金

長期貸付金の時価の算定は、貸倒引当金控除後の価額を時価としております。

負 債

- (1) 支払手形、(2) 工事未払金、(3) 買掛金、(4) 短期借入金、(5) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (6) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場株式	64,693	64,326

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(6) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	5,728,586	—	—	—
受取手形	671,162	—	—	—
電子記録債権	1,470,562	—	—	—
完成工事未収入金	5,364,341	—	—	—
売掛金	2,636,183	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 社債	—	—	400,000	300,000
(2) その他	999,967	—	—	—
合計	16,870,802	—	400,000	300,000

(注) 長期貸付金（218,358千円）は、償還予定額が見込めないため上表に含めておりません。

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	7,699,900	—	—	—
受取手形	695,144	—	—	—
電子記録債権	1,683,877	—	—	—
完成工事未収入金	5,407,360	—	—	—
売掛金	2,485,842	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 社債	—	100,000	500,000	500,000
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) その他	200,000	—	—	—
合計	18,172,125	100,000	500,000	500,000

(注) 長期貸付金（214,994千円）は、償還予定額が見込めないため上表に含めておりません。

4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	755,000	—	—	—	—	—
リース債務（1年内返 済予定のリース債務含 む）	10,278	10,411	10,547	8,935	5,389	—
合計	765,278	10,411	10,547	8,935	5,389	—

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	805,000	—	—	—	—	—
リース債務（1年内返 済予定のリース債務含 む）	21,681	22,027	20,631	17,306	8,701	—
合計	826,681	22,027	20,631	17,306	8,701	—

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (2019年3月31日)

種類		連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	500,000	502,419	2,419
	(3) その他	—	—	—
	小計	500,000	502,419	2,419
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	200,000	199,652	△347
	(3) その他	999,967	999,967	—
	小計	1,199,967	1,199,619	△347
合計		1,699,967	1,702,038	2,071

当連結会計年度 (2020年3月31日)

種類		連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	300,000	300,549	549
	(3) その他	—	—	—
	小計	300,000	300,549	549
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	800,000	793,651	△6,348
	(3) その他	—	—	—
	小計	800,000	793,651	△6,348
合計		1,100,000	1,094,200	△5,799

2. その他有価証券

前連結会計年度（2019年3月31日）

種類		連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	639,077	341,281	297,796
	(2) 債券			
	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	639,077	341,281	297,796
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	61,743	76,037	△14,293
	(2) 債券			
	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	61,743	76,037	△14,293
合計		700,821	417,318	283,502

当連結会計年度（2020年3月31日）

種類		連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	711,586	355,528	356,057
	(2) 債券			
	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	711,586	355,528	356,057
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	42,305	60,975	△18,669
	(2) 債券			
	国債・地方債等	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	200,000	200,000	—
	小計	242,305	260,975	△18,669
合計		953,892	616,504	337,387

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

3. 売却した満期保有目的の債券

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

4. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

5. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について18,042千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職規則に基づく退職一時金制度の他、東日本電機流通企業年金基金に加入しております。当該年金基金は、複数事業主制度によるものであり自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しており、退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 退職一時金制度

(1) 退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,054,419千円	1,116,899千円
簡便法で計算した退職給付費用	110,916	107,749
退職給付の支払額	△48,437	△17,097
その他	—	△20,818
退職給付に係る負債の期末残高	1,116,899	1,186,733

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
退職給付債務	1,116,899千円	1,186,733千円
退職給付に係る負債	1,116,899	1,186,733

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度110,916千円 当連結会計年度107,749千円

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度46,817千円、当連結会計年度45,233千円であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (2018年3月31日現在)	当連結会計年度 (2019年3月31日現在)
年金資産の額	7,669,549千円	7,474,940千円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	7,068,285	6,842,125
差引額	601,264	632,815

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 15.48% (2018年3月31日現在)  
当連結会計年度 14.85% (2019年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、当年度剰余金31,551千円、別途積立金601,264千円であります。  
なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	81,722千円	76,668千円
未払事業税	34,857	33,347
未実現利益	17,251	16,885
連結子会社資産の時価評価による評価差額	11,662	—
未払費用	12,715	11,988
投資有価証券	3,602	2,910
貸倒引当金	138,128	136,835
退職給付に係る負債	364,464	386,862
役員退職慰労引当金	28,236	31,366
その他	34,913	48,595
繰延税金資産小計	727,555	745,462
評価性引当額	△182,070	△198,487
繰延税金資産合計	545,485	546,974
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△47,503	△45,066
その他有価証券評価差額金	△85,141	△103,272
その他	△31	△29
繰延税金負債合計	△132,676	△148,367
繰延税金資産（負債）の純額	412,808	398,606

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.9
役員賞与引当金		0.9
住民税均等割		0.9
評価性引当額の増減(△)		0.9
その他		1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率		35.6



(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)及び当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)及び当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

**【セグメント情報】**

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、当社及び各連結子会社別に、取り扱うサービス・製品について包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社のセグメントは各社のサービス・製品を基礎としたものであり、「建設事業」、「機器販売及び情報システム事業」、「機器のメンテナンス事業」、「電子部品製造事業」の4つを報告セグメントとしております。

「建設事業」は、ビル設備工事、産業設備工事及び環境設備工事を行っております。「機器販売及び情報システム事業」は、機器の販売並びに情報通信機器の施工・販売及びソフトウェアの開発・販売を行っております。「機器のメンテナンス事業」は、空調設備機器等の修理・保守・据付並びに住宅設備機器の設置を行っております。「電子部品製造事業」は、電子部品の検査及びせん別・組立及び装置製造を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	建設事業	機器販売 及び情報 システム 事業	機器のメン テナンス事 業	電子部品製 造事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	16,252,129	5,222,470	5,683,025	1,582,007	28,739,632	331,249	29,070,881
セグメント間の内部売上高 又は振替高	68,324	1,081,332	479,240	9,890	1,638,787	10,000	1,648,787
計	16,320,453	6,303,803	6,162,265	1,591,897	30,378,420	341,249	30,719,669
セグメント利益	927,678	130,711	630,614	76,356	1,765,360	25,368	1,790,729
セグメント資産	15,179,259	3,439,802	4,190,637	1,758,243	24,567,942	337,781	24,905,724
セグメント負債	7,995,306	2,482,552	1,579,623	286,037	12,343,520	333,109	12,676,629
その他の項目							
減価償却費	50,069	1,210	21,978	86,645	159,904	1,023	160,927
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	80,658	2,841	15,717	110,184	209,401	993	210,394

（注）「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、水道施設管理受託業務他を含んでおります。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	建設事業	機器販売 及び情報 システム 事業	機器のメン テナンス事 業	電子部品製 造事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	16,293,880	4,808,759	6,025,264	1,626,406	28,754,311	333,002	29,087,314
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,028	1,478,032	522,404	7,175	2,039,639	—	2,039,639
計	16,325,908	6,286,791	6,547,669	1,633,581	30,793,951	333,002	31,126,953
セグメント利益	731,441	153,467	658,613	49,510	1,593,032	16,310	1,609,343
セグメント資産	16,862,164	3,398,599	4,204,189	1,854,843	26,319,798	337,092	26,656,890
セグメント負債	8,640,141	2,378,385	1,830,666	379,679	13,228,873	323,508	13,552,381
その他の項目							
減価償却費	48,508	1,293	18,761	89,129	157,692	1,519	159,212
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	37,489	283	14,349	130,967	183,089	1,510	184,599

（注）「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、水道施設管理受託業務他を含んでおります。

4. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	30,378,420	30,793,951
「その他」の区分の売上高	341,249	333,002
セグメント間取引消去	△1,648,787	△2,039,639
連結財務諸表の売上高	29,070,881	29,087,314

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,765,360	1,593,032
「その他」の区分の利益	25,368	16,310
セグメント間取引消去	180,195	184,046
セグメント間取引消去到に伴う営業外費用の組替	△36,841	△35,376
その他の調整額	487	874
連結財務諸表の営業利益	1,934,570	1,758,888

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	24,567,942	26,319,798
「その他」の区分の資産	337,781	337,092
セグメント間取引消去	△1,140,232	△1,593,468
配分していない全社資産	△22,338	—
その他の調整額	△23,555	△22,904
連結財務諸表の資産	23,719,598	25,040,517

(単位：千円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,343,520	13,228,873
「その他」の区分の負債	333,109	323,508
セグメント間取引消去	△1,236,495	△1,692,677
連結財務諸表の負債	11,440,134	11,859,704

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	159,904	157,692	1,023	1,519	27,478	26,081	188,405	185,294
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	209,401	183,089	993	1,510	—	—	210,394	184,599

**【関連情報】**

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所有している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）及び当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）	当連結会計年度 （自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
1株当たり純資産額	1,349.03円	1,446.65円
1株当たり当期純利益	162.33円	124.17円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）	当連結会計年度 （自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	1,477,204	1,131,023
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	1,477,204	1,131,023
普通株式の期中平均株式数（千株）	9,100	9,108

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	755,000	805,000	0.5	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	10,278	21,681	1.4	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	35,283	68,667	1.4	2022年10月31日～ 2025年2月28日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	800,562	895,348	—	—

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2. リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	22,027	20,631	17,306	8,701

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	5,156,291	11,423,212	18,007,258	29,087,314
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期(当期)純損失(△)(千円)	△11,873	341,243	610,969	1,757,280
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)(千円)	△32,171	196,343	374,894	1,131,023
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失(△)(円)	△3.53	21.56	41.16	124.17

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)(円)	△3.53	25.09	19.60	82.99

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	※1 3,503,867	※1 5,305,641
受取手形	285,562	297,964
電子記録債権	1,067,001	1,332,652
完成工事未収入金	※2 5,365,064	※2 5,433,433
有価証券	999,967	200,000
未成工事支出金	206,197	209,963
材料貯蔵品	1,224	3,165
前払費用	30,589	26,580
未収入金	76,052	62,132
その他	68,060	95,650
流動資産合計	11,603,588	12,967,184
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 1,891,623	※1 1,910,184
減価償却累計額	△1,411,154	△1,437,933
建物（純額）	※1 480,468	※1 472,250
構築物	70,472	74,872
減価償却累計額	△60,309	△61,803
構築物（純額）	10,163	13,069
機械及び装置	7,779	6,065
減価償却累計額	△7,557	△5,876
機械及び装置（純額）	221	189
工具器具・備品	142,769	132,774
減価償却累計額	△129,522	△123,850
工具器具・備品（純額）	13,246	8,923
土地	※1 1,455,827	※1 1,455,827
リース資産	76,788	53,704
減価償却累計額	△31,478	△18,820
リース資産（純額）	45,310	34,883
有形固定資産合計	2,005,237	1,985,143
無形固定資産		
借地権	6,499	6,499
ソフトウェア	83,681	64,699
その他	6,357	10,316
無形固定資産合計	96,538	81,516



(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1,157,808	1,516,637
関係会社株式	1,821,306	1,361,306
関係会社長期貸付金	246,604	246,604
長期前払費用	2,578	1,797
繰延税金資産	80,027	79,033
会員権	46,640	46,640
その他	38,256	39,525
貸倒引当金	△98,022	△101,918
投資その他の資産合計	3,295,201	3,189,627
固定資産合計	5,396,977	5,256,287
資産合計	17,000,566	18,223,471
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,309,836	2,064,175
工事未払金	※2 3,153,891	※2 3,802,256
短期借入金	※1 550,000	※1 600,000
リース債務	10,278	10,411
未払金	83,679	85,846
未払消費税等	33,305	27,686
未払費用	59,521	59,458
未払法人税等	267,514	250,984
未成工事受入金	247,077	260,340
預り金	518,283	666,800
完成工事補償引当金	17,600	14,586
賞与引当金	96,332	98,360
役員賞与引当金	25,000	27,000
工事損失引当金	312	9,472
流動負債合計	7,372,632	7,977,378
固定負債		
リース債務	35,283	24,871
退職給付引当金	490,319	530,560
役員退職慰労引当金	92,580	102,840
資産除去債務	4,490	4,490
固定負債合計	622,673	662,763
負債合計	7,995,306	8,640,141

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,029,213	1,029,213
資本剰余金		
資本準備金	805,932	805,932
その他資本剰余金	3,227	6,139
資本剰余金合計	809,159	812,071
利益剰余金		
利益準備金	166,578	166,578
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	108,246	102,691
別途積立金	4,251,000	4,251,000
繰越利益剰余金	3,691,988	4,229,840
利益剰余金合計	8,217,814	8,750,110
自己株式	△1,239,195	△1,234,998
株主資本合計	8,816,990	9,356,397
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	188,269	226,932
評価・換算差額等合計	188,269	226,932
純資産合計	9,005,259	9,583,329
負債純資産合計	17,000,566	18,223,471

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	16,320,453	16,325,908
売上原価	14,054,521	14,246,487
売上総利益	2,265,932	2,079,421
販売費及び一般管理費		
役員報酬	92,472	99,212
役員賞与引当金繰入額	25,000	27,000
役員退職慰労引当金繰入額	9,485	10,260
従業員給料手当	613,689	616,134
賞与引当金繰入額	37,462	38,576
退職給付費用	34,647	36,054
法定福利費	115,012	117,055
福利厚生費	8,550	7,210
修繕維持費	2,416	4,750
事務用品費	14,090	11,571
通信交通費	55,825	53,537
動力用水光熱費	7,207	6,879
調査研究費	1,319	2,455
広告宣伝費	6,128	4,801
交際費	11,098	13,007
寄付金	3,474	3,648
地代家賃	20,451	19,968
減価償却費	24,457	23,965
租税公課	61,768	44,379
保険料	14,969	16,003
雑費	178,724	191,507
販売費及び一般管理費合計	1,338,253	1,347,979
営業利益	927,678	731,441
営業外収益		
受取利息	3,105	5,194
受取配当金	※ 279,896	※ 298,914
固定資産賃貸料	※ 57,467	※ 57,055
受取事務手数料	※ 86,220	※ 89,940
受取保険金	8,792	6
貸倒引当金戻入額	85,006	600
雑収入	43,101	39,172
営業外収益合計	563,590	490,885

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業外費用		
支払利息	3,007	4,035
固定資産賃貸費用	31,311	29,989
貸倒引当金繰入額	—	3,896
その他	4,065	839
営業外費用合計	38,384	38,760
経常利益	1,452,884	1,183,565
特別損失		
投資有価証券評価損	—	13,957
子会社株式売却損	—	89,936
特別損失合計	—	103,893
税引前当期純利益	1,452,884	1,079,671
法人税、住民税及び事業税	336,678	292,753
法人税等調整額	△2,715	△18,584
法人税等合計	333,963	274,169
当期純利益	1,118,920	805,502

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
材料費		4,597,058	32.7	4,540,153	31.9
外注費		7,925,575	56.4	8,241,374	57.8
経費		1,531,888	10.9	1,464,960	10.3
(うち人件費)		(1,110,291)	(7.9)	(1,060,040)	(7.4)
計		14,054,521	100.0	14,246,487	100.0

(注) 原価計算の方法は個別原価計算の方法により、工事ごとに原価を、材料費、外注費、経費の要素別に実際原価をもって分類集計しております。

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
						固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,029,213	805,932	—	805,932	166,578	113,929	4,251,000	2,840,354	7,371,862
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						△5,682		5,682	—
剰余金の配当								△272,968	△272,968
当期純利益								1,118,920	1,118,920
自己株式の処分			3,227	3,227					
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	3,227	3,227	—	△5,682	—	851,634	845,951
当期末残高	1,029,213	805,932	3,227	809,159	166,578	108,246	4,251,000	3,691,988	8,217,814

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△1,242,534	7,964,472	243,621	243,621	8,208,094
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
剰余金の配当		△272,968			△272,968
当期純利益		1,118,920			1,118,920
自己株式の処分	3,339	6,566			6,566
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）			△55,352	△55,352	△55,352
当期変動額合計	3,339	852,517	△55,352	△55,352	797,165
当期末残高	△1,239,195	8,816,990	188,269	188,269	9,005,259

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,029,213	805,932	3,227	809,159	166,578	108,246	4,251,000	3,691,988	8,217,814
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						△5,555		5,555	—
剰余金の配当								△273,205	△273,205
当期純利益								805,502	805,502
自己株式の処分			2,912	2,912					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	2,912	2,912	—	△5,555	—	537,851	532,296
当期末残高	1,029,213	805,932	6,139	812,071	166,578	102,691	4,251,000	4,229,840	8,750,110

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△1,239,195	8,816,990	188,269	188,269	9,005,259
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		—			—
剰余金の配当		△273,205			△273,205
当期純利益		805,502			805,502
自己株式の処分	4,197	7,110			7,110
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			38,662	38,662	38,662
当期変動額合計	4,197	539,407	38,662	38,662	578,070
当期末残高	△1,234,998	9,356,397	226,932	226,932	9,583,329

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券  
償却原価法（定額法）

(2) 子会社株式  
移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 未成工事支出金  
個別法による原価法

(2) 材料貯蔵品  
最終仕入原価法

### 3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物31～50年、建物附属設備12～15年であります。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、自社利用のソフトウェア5年であります。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

(2) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、完成工事高に対する将来の見積補償額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(4) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(5) 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における自己都合要支給額に基づき計上しております。

(7) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。



5. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、10,813,212千円であります。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

（貸借対照表関係）

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
現金預金	120,000千円	( ー千円)	120,000千円	( ー千円)
建物	19,133	( ー )	17,593	( ー )
土地	90,825	( 77,311 )	90,825	( 77,311 )
計	229,958	( 77,311 )	228,419	( 77,311 )

上記のうち、( )内書は関係会社の仕入債務の担保を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期借入金	320,000千円	320,000千円

※2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
流動資産		
完成工事未収入金	12,420千円	26,072千円
流動負債		
工事未払金	914,414	533,293

### 3 保証債務

関係会社に対して連帯保証を行っております。  
債務保証

前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
藤田ソリューションパートナーズ(株) (仕入債務)	1,334,251千円	藤田ソリューションパートナーズ(株) (仕入債務)	1,295,687千円
藤田テクノ(株) (仕入債務)	45,723	藤田テクノ(株) (仕入債務)	51,578
システムハウスエンジニアリング(株) (仕入債務)	217		
計	1,380,192	計	1,347,266

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
当座貸越極度額	2,220,000千円	2,220,000千円
借入実行残高	550,000	600,000
差引額	1,670,000	1,620,000

(損益計算書関係)

※ 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
受取配当金	265,500千円	283,400千円
固定資産賃貸料	55,477	55,432
受取事務手数料	86,220	89,940

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額1,361,306千円、前事業年度の貸借対照表計上額1,821,306千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	29,381千円	29,999千円
未払費用	4,757	4,913
未払事業税	15,787	17,031
完成工事補償引当金	5,368	4,448
退職給付引当金	149,547	161,821
投資有価証券	3,523	2,884
貸倒引当金	84,079	85,084
役員退職慰労引当金	28,236	31,366
子会社株式評価損	30,493	30,493
その他	13,440	17,679
繰延税金資産小計	364,615	385,723
評価性引当額	△157,108	△162,071
繰延税金資産合計	207,507	223,651
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	△47,503	△45,066
その他有価証券評価差額金	△79,944	△99,522
その他	△31	△29
繰延税金負債合計	△127,479	△144,617
繰延税金資産（負債）の純額	80,027	79,033

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	1.1
役員賞与引当金	0.5	0.7
住民税均等割	0.6	0.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.6	△8.1
評価性引当額の増減(△)	△4.1	0.5
過年度法人税等	0.5	—
その他	0.2	△0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.0	25.4

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

④【附属明細表】  
【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)
		太陽誘電(株)	131,227	375,440
		(株)SUBARU	40,531	84,041
		(株)ヤマト	132,000	83,952
		(株)日立製作所	12,830	40,324
		日本化薬(株)	32,187	32,026
		(株)群馬銀行	86,206	28,275
		群栄化学工業(株)	9,263	22,676
		サンデンホールディングス(株)	30,242	10,947
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	4,100	10,754
		(株)群馬ロイヤルホテル	9,000	9,000
		その他 (8銘柄)	34,014	19,199
計			521,601	716,637

【債券】

投資有価証券	満期保有目的の債券	銘柄	券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)
		第3回イオン利払繰延・期限前償還条項付社債	100,000	100,000
		第1回株式会社群馬銀行劣後債	100,000	100,000
		第2回株式会社群馬銀行劣後債	100,000	100,000
		第4回株式会社群馬銀行劣後債	100,000	100,000
		第5回株式会社群馬銀行劣後債	100,000	100,000
		東京電力パワーグリッド(株)第17回社債	100,000	100,000
		第1回(株)かんぼ生命保険劣後債	100,000	100,000
		第1回(株)住友生命劣後債	100,000	100,000
計			800,000	800,000

【その他】

有価証券	その他有価証券	種類及び銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (千円)
		(合同運用指定金銭信託) スタートラストα	200	200,000
計			200	200,000

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期 末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,891,623	23,271	4,710	1,910,184	1,437,933	29,961	472,250
構築物	70,472	4,400	—	74,872	61,803	1,494	13,069
機械及び装置	7,779	—	1,713	6,065	5,876	32	189
工具器具・備品	142,769	847	10,842	132,774	123,850	5,049	8,923
土地	1,455,827	—	—	1,455,827	—	—	1,455,827
リース資産	76,788	—	23,084	53,704	18,820	10,426	34,883
有形固定資産計	3,645,259	28,519	40,350	3,633,428	1,648,284	46,964	1,985,143
無形固定資産							
借地権	6,499	—	—	6,499	—	—	6,499
ソフトウェア	162,284	4,900	42,240	124,944	60,244	23,881	64,699
その他	8,263	4,070	1,000	11,333	1,017	110	10,316
無形固定資産計	177,047	8,970	43,240	142,777	61,261	23,992	81,516

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	98,022	3,896	—	—	101,918
完成工事補償引当金	17,600	14,586	17,600	—	14,586
賞与引当金	96,332	98,360	96,332	—	98,360
役員賞与引当金	25,000	27,000	25,000	—	27,000
工事損失引当金	312	9,472	312	—	9,472
役員退職慰労引当金	92,580	10,260	—	—	102,840

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。https://www.fujita-eng.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第56期）（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）2019年6月27日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
2019年6月27日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書  
（第57期第1四半期）（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）2019年8月9日関東財務局長に提出  
（第57期第2四半期）（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）2019年11月13日関東財務局長に提出  
（第57期第3四半期）（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）2020年2月12日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書  
2019年6月28日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月26日

藤田エンジニアリング株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

長野事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 矢野 浩一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤野 竜男 印

## <財務諸表監査>

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている藤田エンジニアリング株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、藤田エンジニアリング株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### <内部統制監査>

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、藤田エンジニアリング株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、藤田エンジニアリング株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

##### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

藤田エンジニアリング株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

### 長野事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

矢野 浩一

印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

藤野 竜男

印

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている藤田エンジニアリング株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、藤田エンジニアリング株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年6月26日
【会社名】	藤田エンジニアリング株式会社
【英訳名】	FUJITA ENGINEERING CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤田 実
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	群馬県高崎市飯塚町1174番地5
【縦覧に供する場所】	藤田エンジニアリング株式会社埼玉支店 (埼玉県熊谷市問屋町二丁目2番17号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長藤田実は、当社の第57期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

**【表紙】**

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年6月26日
【会社名】	藤田エンジニアリング株式会社
【英訳名】	FUJITA ENGINEERING CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤田 実
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	群馬県高崎市飯塚町1174番地5
【縦覧に供する場所】	藤田エンジニアリング株式会社埼玉支店 (埼玉県熊谷市問屋町二丁目2番17号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)



## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長藤田実は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2020年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定致しました。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定致しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社3社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定致しました。なお、他の連結子会社3社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲外としております。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結売上高等を指標に、その概ね2/3に達している事業拠点を「重要な事業拠点」と致しました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として「売上高」「完成工事未収入金」「売掛金」「未成工事支出金」「商品」「仕掛品」「材料貯蔵品」に至る業務プロセスを評価の対象と致しました。さらに、財務報告への影響を勘案して、重要性の大きい業務プロセスについては、個別に評価の対象に追加致しました。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当社代表取締役社長藤田実は、2020年3月31日現在の当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断致しました。

## 4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

## 5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。